

## P115b 星形成レガシープロジェクト I: Overview

中村文隆 (NAOJ)、石井峻 (NAOJ/JAO)、土橋一仁 (東京学芸大学)、下井倉ともみ (大妻女子大学)、島尻芳人 (鹿児島大学) 川辺良平 (NAOJ)、田辺義浩 (茨城大)、広瀬亜紗 (東京学芸大学)、小山田朱里 (日本女子大)、浦沢由美子 (新潟大)、竹村英晃 (総研大)、百瀬宗武 (茨城大)、杉谷光司 (名古屋市立大)、西亮一 (新潟大)、奥村幸子 (日本女子大)、Patricio Sanhueza (国立天文台)、Quang Nygen-Luong (IBM/Canada)、楠根貴成 (国立天文台) 他星形成レガシーチーム

星形成レガシープロジェクトでは、近傍の星形成領域であるオリオン座 A 分子雲、Aquila Rift、M17 の広域観測を 2014 年から 2017 年にわたる 3 年間行ってきた。メンバーの献身的な努力により、2018 年 5 月に取得データ [ $^{12}\text{CO}$  ( $J=1-0$ ),  $^{13}\text{CO}$  ( $J=1-0$ ),  $\text{C}^{18}\text{O}$  ( $J=1-0$ ),  $\text{N}_2\text{H}^+$  ( $J=1-0$ )] を一般公開した。

取得データから、各領域の分子ガスの分布や大質量星形成領域の物理状態の特徴、分子ガスの総質量などが明らかになってきた (Nakamura et al. 2019)。前回の年会では個々の解析結果の一部 (原始星アウトフロー探査など) を紹介した (P127c)。本講演では、PASJ の野辺山 FOREST 受信機の特集号の出版に合わせて、星形成レガシープロジェクトのこれまでの成果のまとめとして、プロジェクトの目的を概観し、これまでに得られたサイエンス成果を簡単に紹介する。